

第一 部

研 究 基 調

目 次

I	研究主題	1
II	研究主題について	1
1	研究主題設定の理由	1
2	研究主題の押さえ	1
(1)	「豊かな生活」とは	1
(2)	「豊かな生活につながる力」とは	2
(3)	一人一人の子供の「豊かな生活につながる力」を高めていくために	3
(4)	「豊かな生活につながる授業づくり」のために	3
III	研究目的	5
IV	研究仮説	5
V	研究内容	5
VI	研究方法	5
1	研究の進め方	5
(1)	個別の指導計画にかかわるシステムに関して	5
(2)	個別の指導計画を生かした授業づくりに関して	7
2	研究組織	7
3	研究計画	8
	参考文献	9
	資料「豊かな生活につながる力」の領域と主な内容	10

I**研究主題**

一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活につながる授業づくり
－ 個別の指導計画の作成と活用を通して －

II**研究主題について****1 研究主題設定の理由**

本校では、平成8年度からの研究の中で、「一人一人の子供」「将来の生活」を視点とする取組を重視してきた。そして、前次研究（平成10年度～12年度）においては、「一人一人に応じた指導」「将来の生活につながる指導」「主体的な活動を促す指導」の充実を図る方策を実践を通して明らかにすることにより、一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活につながる教育課程の編成はどうあればよいかを探った。具体的には、「教育的ニーズの把握と分析」「生活重視の指導内容の選択・組織」「授業実践による指導方法の改善」「個別の指導計画作成」という四つの観点を研究内容として、各学部がそれぞれ研究対象とする指導の形態を決めて実践研究を進めた。

わたしたちはこの取組の中で、一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活を考えることの大切さを保護者と共に今まで以上に認識するとともに、その実現に向けて一人一人に応じた指導計画を準備し、指導内容・方法を最適化していく必要性を確認し合うことができた。同時に前次研究では、教育課程編成の基本的考え方や具体的手続きを探ることを目的としたために、研究内容が多岐にわたり、個々のレベルにおいて各研究成果が具体化・集約化される個別の指導計画は、その立案に時間と労力を要さざるを得なかった。そのために、一人一人の子供の教育的ニーズにこたえるためには、もっと個別の指導計画を活用して授業を展開したいと願いながらも、具体的な授業実践を十分に積み上げることはできなかった。また、教師間、教師と保護者間において、個別の指導計画を基にした子供の情報の集約・共有・引継ぎが十分にできるまでには至らず、継続的な研究の必要性を課題として残した。

以上のことから、わたしたちの教育実践を、一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活に確実につなげていくためには、これまでの成果と課題を踏まえて、一人一人の子供が主体的に活動できる授業を創造し、その実践を積み重ねていくことが大切であると考えた。そこで、今次研究では、個別の指導計画を作成・活用するためのシステムについても検討を加えつつ、個別の指導計画を生かした授業づくりの在り方について探っていくことにした。

2 研究主題の押さえ**(1) 「豊かな生活」とは**

一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活とは、極めて個別的なものであり、明確に定義付けることは難しい。しかし、自分のよさや能力を思う存分発揮できる生活、自己選択・自己決定のある生活、生きがいや趣味を持って楽しめる生活などを考えることができる。これらの生活に

においては、それぞれの生活場面で直面する様々な課題を、必要な支援は受けながらも、常に自分の意志と決定で解決し、自己実現を図りながら生活の主体者として暮らしている子供の姿を思い浮かべることができる。このことから、本校では、「豊かな生活」を次のようにとらえた。

子供たちが現在及び将来の生活において大切となる様々な力を身に付けながら、自分でできることを確実に増やしていくとともに、それらを主体的、自立的に発揮して自己実現を図る生活

(2) 「豊かな生活につながる力」とは pp.10-11 資料「豊かな生活につながる力の領域と主な内容」参照

「現在及び将来の生活の中で直面する様々な課題や問題を子供自らが解決していく力」の総称

一人一人の子供が現在及び将来にわたって豊かな生活を営むためには、生活の中で直面するであろう様々な課題や問題を解決するための知識や技能を身に付けているとともに、それらを主体的に発揮して自らその課題を解決しようとする意欲や態度を持っていることが必要である。

本校では、これらの知識・技能と意欲・態度を総称して、「豊かな生活につながる力」ととらえている。具体的には、意欲や態度に対応する力として「自らしようとする力」、知識や技能に対応する力として「日常生活に必要な力」、「生活の幅を広げていく力」、「共に生活する力」の全部で四つの力を「豊かな生活につながる力」の各要素としてとらえている。もちろん、意欲や態度に対応する力と知識や技能に対応する力は、それぞれ別々に高められていくのではなく、同時に絡み合いながらはぐくまれていくものであると考えている。

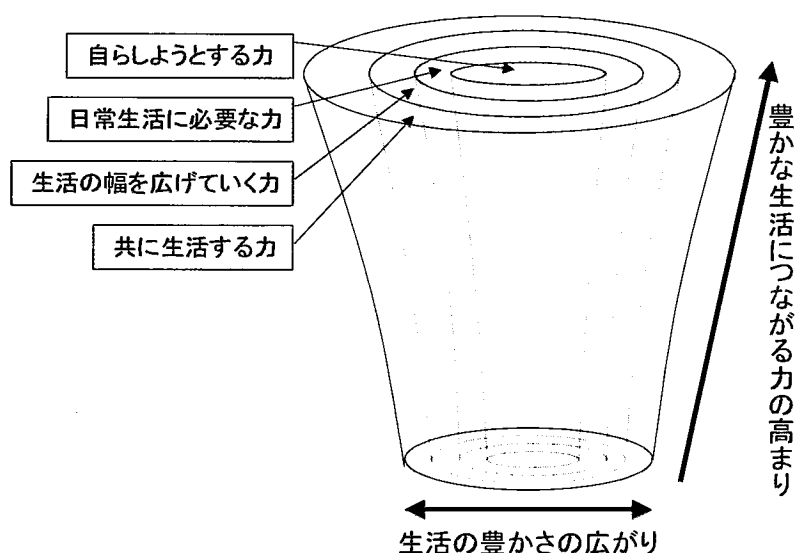


図1 豊かな生活につながる力の高まりと生活の豊かさの広がり

ここで、豊かな生活につながる力の高まりと生活の豊かさの広がりについて表したのが図1である。下から上に向かって輪が広がっているのは、豊かな生活につながる力は次第に高まっていくことを表している。また、輪の中心部に「自らしようとする力」があり、外側にいくにした

がって「日常生活に必要な力」、「生活の幅を広げていく力」、「共に生活する力」を位置付けている。これは、豊かな生活につながる力の高まりの程度に違いがあっても、「豊かな生活につながる力」の構造自体には変わりはないことを表している。したがって、ある段階で横断した場合、その断面はある時点での生活の豊かさの程度を表している。

(3) 一人一人の子供の「豊かな生活につながる力」を高めていくために 一 個別の指導計画の作成と活用

一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活につなげていくためには、豊かな生活につながる四つの力を総合的に高めていくことが大切である。しかし、一人一人の子供の生活の様相や現在身に付けている「豊かな生活につながる力」は様々であり、その子供の教育的ニーズに応じて「豊かな生活につながる力」を高めていくことが必要となる。本校では、教育的ニーズを「一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活を実現するために、子供自身や保護者の願い、教師の願い、社会の要請等を、総合的に考察した結果として導き出された課題」ととらえているが、一人一人異なり実に多様である。

以上のことを踏まえると、日々の様々な生活場面、学習場面において「豊かな生活につながる力」を高めていくには、一人一人の子供について四つの力を構成している9領域ごとに教育的ニーズを導き出し、それを基に指導目標・指導内容・指導方法を個別化していくことが必要である。そこで、その手段として個別の指導計画を取り上げ、その作成と活用を通して研究主題である「一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活につながる授業づくり」に迫っていきたい。

(4) 「豊かな生活につながる授業づくり」のために

子供の主体的な活動

一人一人の子供が、自分のよさや持つ力を発揮し、課題解決を図りながら自己実現的な生活を送ることができるようにするには、現在の生活そのものがより豊かで自己実現が図られるように、教育環境の整備を進めていくことがこれまで以上にわたしたちに求められていると考える。特に授業を中心として、子供たちが「豊かな生活につながる力」を高めていくことができるように支援することが必要である。具体的には、主体性との関連の強い「自らしようとする力」を重視しながら、一人一人の子供の興味・関心や今現在できることを生かして授業設計するとともに、活動に見通しが持てるようにし、子供が主体的な活動ができるような教師のかかり方や場の設定、教材・教具の工夫等の支援が大切である。わたしたちは、子供の主体的な活動を促す指導の充実を図り、子供が満足感、成就感を味わい、次への新たな活動意欲を持つことのできる授業を創造していきたい。

個別の指導計画を生かした授業づくり

授業は、子供の生活を豊かにするために創造、展開され、積み重ねられていくものである。本校では、「豊かな生活につながる力」を高めていくために個別の指導計画を作成しており、その意味で授業づくりと個別の指導計画は切り離しては考えられない。個別の指導計画は、一人一人の子供の教育的ニーズに応じた学習活動を展開するための教育計画の一つであり、授業

において一人一人の子供に対する指導の最適化を目指すときになくてはならないものである。

一人一人の子供の実態の的確な理解を基盤として個別の指導計画を作成することで、現在及び将来の生活において期待する姿や全人的な成長・発達において重視される個別の課題が明確になる。授業づくりでは、これまでの生活とこれからの生活を思い描き、この時期だからこそねらいたいことや取り組んでみたいことを大切にしながら、一人一人の子供の期待する姿や課題から、この授業ではどんな目標を設定するかを決めた上で、どのような学習内容や学習形態が適切なのか、あるいは一人一人の子供の目標を包含できるような単元・題材はどのようなものであるかを検討することになる。

つまり、個別の指導計画に明記されている課題の解決は、日々の授業の中で実現していくものであり、指導計画の立案方法では、単元（題材）自体のねらいが常に前提としてあるのではなく、一人一人の子供の教育的ニーズから構成するという発想も求められる。したがって、授業づくりにおいては、一人一人の子供の個別の指導計画に明記されている課題の解決に向けて、どのような形でそれらを取り上げ、どのように組み合わせる学習活動を構成、展開していくかを重視していきたい。

個を見つめ、集団を大切にした授業づくり

「一人一人に応じた指導」の一層の充実を目指して個別の指導計画を作成するが、これは学習形態として1対1の指導を意味するものではない。個別指導も含めて様々な集団の中で、一人一人の子供に視点を当てて、その指導を最適化するためのものである。

学校教育では、一人一人の子供が仲間と活動や体験を共有できる集団での活動が大きな役割を担っており、活動自体も集団の中で仲間とかわり合いながら進めてこそ社会的な生活能力を育てる上で意味あるものになる。したがって、授業づくりにおいては、個別の指導計画に明示されている一人一人の子供の課題から出発し、その課題解決のために指導目標・指導内容・指導方法を個別化すると同時に、最適な集団構成を工夫しながら、子供たちの指導目標を包含できる多様な活動を準備するなどして、学習活動の集団化を図ることが重要になる。

「個別化」と「集団化」を対立的にとらえるのではなく、個別の指導計画を生かし、指導の個別化と学習活動の集団化を図ることで、日々の授業の改善・充実を目指していきたい。

授業改善のための記録の蓄積と評価

授業づくりは、設計→展開→評価という三つの段階を含み、これが繰り返されるものである。設計の段階では、一人一人の子供の指導目標や指導内容を具体的な学習活動として構成し、支援の在り方を検討する。そして、この計画の下に実際に授業を展開し、その結果については授業後評価を行い、評価を踏まえて次の授業設計を行う。学校教育の中核をなすのは授業であり、わたしたちは常によりよい授業を行いたいと願っている。よりよい授業づくりに欠かせないのは、評価によって得られた情報を次時からの授業づくりにフィードバックしていくことである。そのためには授業記録や日々の実践記録を蓄積し、ある焦点化された観点から分析、検討を加えることが大切である。授業記録の方法としては、VTRに収録する方法、ある一定の様式の用

紙に記録していく方法など様々なものがあるが、授業改善につながることを第一に考えながら工夫していきたい。

Ⅲ 研究目的

一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活を目指し、個別の指導計画の作成と活用を通して授業づくりの在り方を明らかにする。

Ⅳ 研究仮説

授業づくりにおいて、以下の視点を持って取り組むことで、一人一人の子供は、「豊かな生活につながる力」を高め、現在及び将来において豊かな生活を実現していくことができるのではないだろうか。

- 1) 個別の指導計画にかかわる計画、実践、評価のシステムを整備する。
- 2) 一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活につながる授業づくりにおいては、個別の指導計画を十分に生かす。

Ⅴ 研究内容

研究内容 1 個別の指導計画にかかわる計画、実践、評価のシステムを考える。

研究内容 2 個別の指導計画を生かした授業づくりを考える。

Ⅵ 研究方法

1 研究の進め方

(1) 個別の指導計画にかかわるシステムに関して

一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活を目指し、個別の指導計画の作成と活用を通して授業づくりの在り方を明らかにするには、これと関連して個別の指導計画にかかわるシステムの整備が必要となってくる。

個別の指導計画にかかわるシステムの整備に当たっては、まず従前の個別の指導計画に基づいた平成12年度の取組における実践上の課題について整理し、その基本的な考えや様式について検討する。同時に、教師間及び教師と保護者間における子供の情報の集約・共有・引継ぎに関する課題についても整理し、本校がこれまで取り組んできている「教育的ニーズを語る会」や学部ミ

ーティング、教育相談等の在り方について検討する。次に、これらを基に個別の指導計画にかかわるシステム（基本的な考え方、様式、作成手順等）を考える。そして、このシステムの下、実践場面において一人一人の子供の個別の指導計画の作成・活用・評価を行い、以下の3点により、システムが整備・確立され、機能的に働いたかについての評価・検証を行う。

- ① 個別の指導計画に関するアンケート（教師及び保護者対象）
- ② 個別の指導計画の評価結果の集約・分析
- ③ 個別の指導計画を生かした実践事例

なお、個別の指導計画を生かした実践事例に当たっては、各学部3名の事例対象児を抽出し、授業場面を中心としながらも学校生活における授業以外の場面や家庭、外部機関との連携も視野に入れた取組を行い、今回のシステムの有効性ととともに今後検討していくべき点について探る。

最後に、これらの結果から今次研究の成果と課題についてまとめ、個別の指導計画の様式も含めて、より機能的で実用的なシステムの完成に向けて考察を加える。

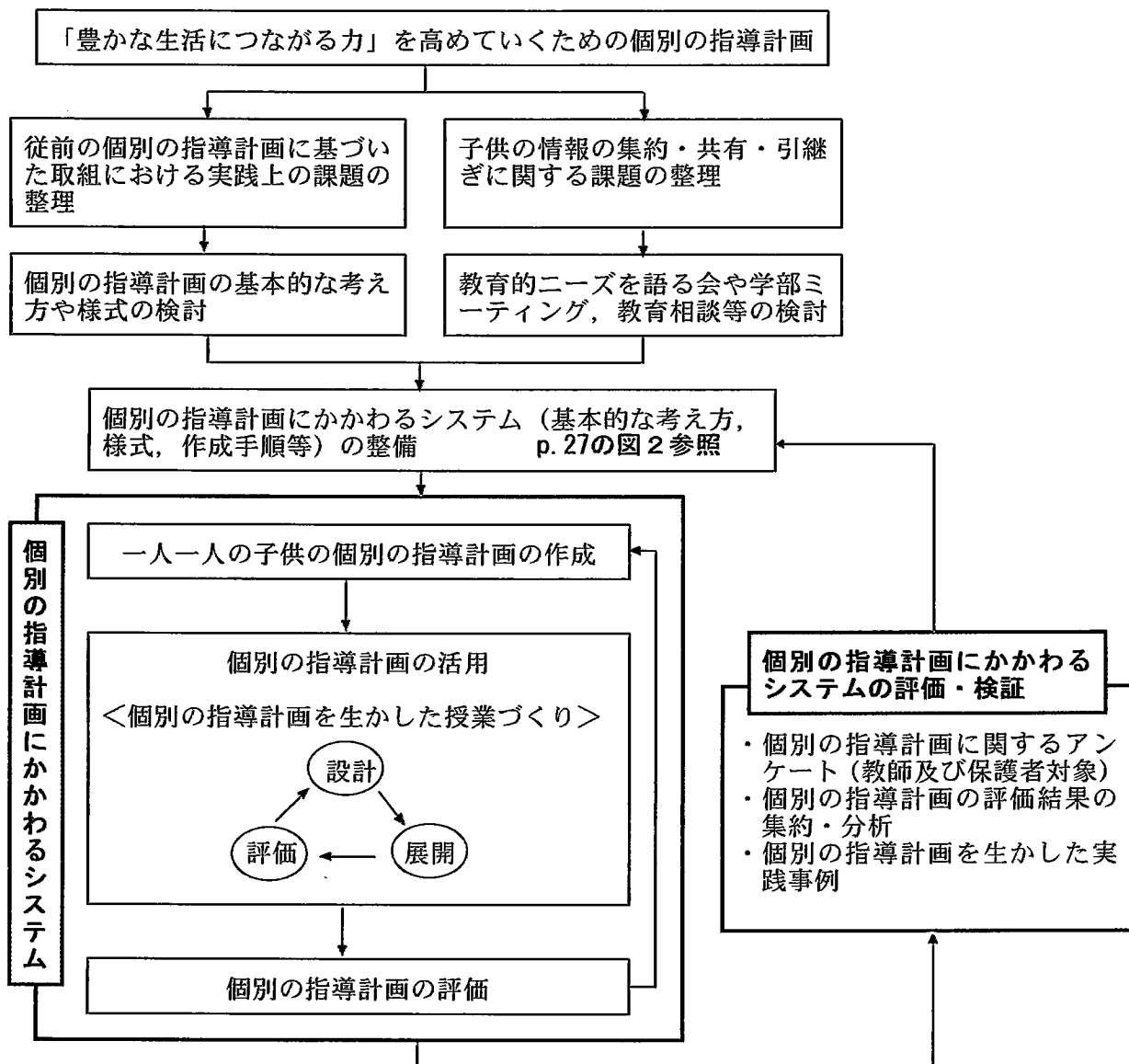


図2 研究の進め方

(2) 個別の指導計画を生かした授業づくりに関して

個別の指導計画を生かした授業づくりに当たっては、個別の指導計画にかかわるシステムの下で作成した個別の指導計画を、授業づくりにおいてどのように活用していくかを検討する。この場合、授業づくりを研究対象とすることから、一人一人の子供と日々接し、授業を行っている各学部において、その在り方を探っていくこととする。

各学部は、それぞれの学部における教育的ニーズの集団的傾向、これまでの研究の成果と課題、自分たち教師の問題意識等を踏まえて学部の研究主題を設定し、実践的な立場から研究を推進する。具体的には、学部としての基本的な考えを確認し合いながら授業づくりミーティングや授業研究会を実施し、個別の指導計画を生かした授業づくり（設計→展開→評価）の在り方を明らかにする。また、日々の授業実践をある焦点化された観点から見直し、適切な支援の在り方についても深めていくようにする。

2 研究組織

個別の指導計画を生かした授業づくりを中心とする実践研究を重視した取組を行うことから、学部研究を研究組織の基礎単位とする。そして、全体研究において研究の基本的方向性に関して共通認識を図りながら、学校全体として「一人一人の子供の現在及び将来につながるための授業づくり」に取り組む。

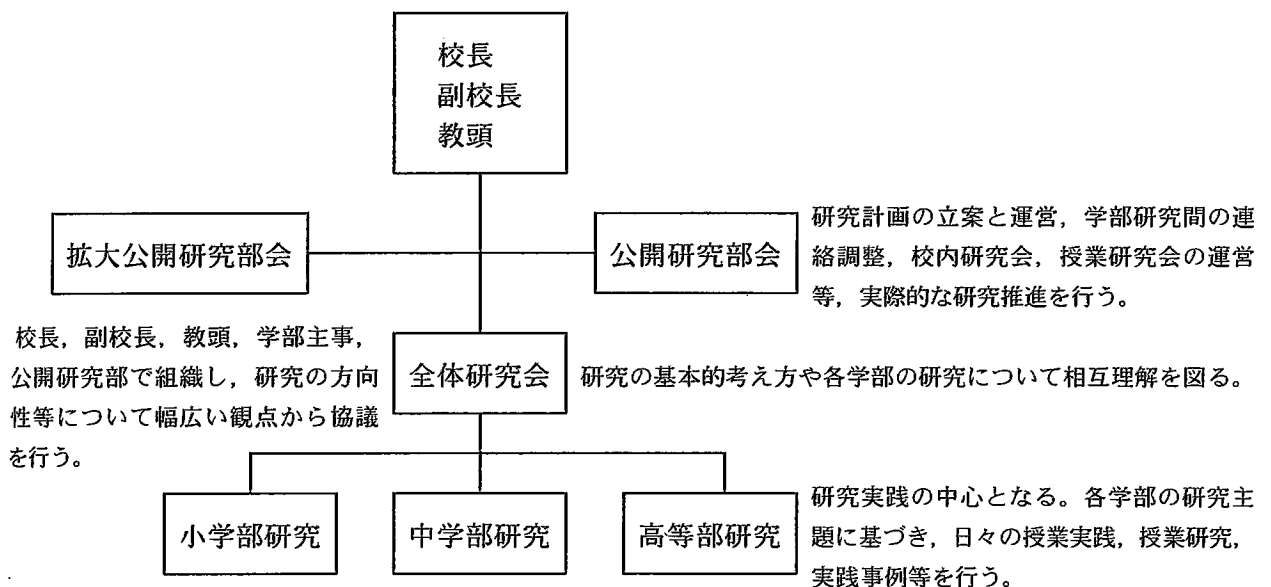


図3 研究組織図

3 研究計画

	研究事項	具体的な研究内容
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究主題の設定 ○ 個別の指導計画にかかわるシステムの整備 ○ 個別の指導計画を生かした授業実践の基盤づくり ○ 研究の中間まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前次研究の成果と課題を踏まえた研究課題の明確化 ○ 今次研究の基本的な考え方の検討 ○ 個別の指導計画の実践上の課題の整理 ○ 個別の指導計画の基本的な考え方や様式の検討 ○ 子供の情報の集約・共有・引継ぎに関する課題の整理 ○ 教育的ニーズを語る会や学部ミーティング等の検討 ○ 個別の指導計画にかかわるシステムの検討 ○ 各学部の研究主題設定及び基本的考え方の相互理解 ○ 授業実践における重点課題の設定（計画段階における授業設計の在り方，実施段階における支援の在り方等） ○ 実践事例対象児の選定，実践 ○ 学部授業研究会の実施 ○ 校内研究会の実施 ○ 今年度の課題を踏まえた次年度の方向性の確認 ○ 個別の指導計画に関する説明会（保護者対象）の実施
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度研究の成果と課題の確認 ○ 個別の指導計画にかかわるシステムについての確認整理 ○ 個別の指導計画を生かした授業づくりの推進 ○ 実践事例の推進 ○ 個別の指導計画にかかわるシステムの評価 ○ 第11回公開研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成13年度の研究における成果や課題の明確化と課題解決に向けた方策の検討 ○ 個別の指導計画の作成と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部ミーティングの実施 ・ 教育的ニーズを語る会の実施 ・ 教育相談の実施 ○ 個別の指導計画を生かした授業づくり（設計→展開→評価）の考え方や手順の明確化，相互理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業づくりミーティングの実施 ・ 授業研究会の実施（学期2回ずつ） ○ 個別の指導計画に基づく一人一人の子供への支援の在り方の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の指導計画にかかわるシステムの有効性の検討 ○ 個別の指導計画の評価結果の集約・分析 ○ 個別の指導計画に関するアンケートの実施・集約・分析 ○ 研究のまとめと情報発信 ○ 成果と今後の課題の整理，確認

（文責：瀨崎信一）

参 考 文 献

- 愛媛大学教育学部附属養護学校（2001）：研究収録第28集「主体的に生きる子どもを育てる」
－個が生き、集団が活きる授業づくり－
- 弘前大学教育学部附属養護学校（2000）：研究紀要第16集「社会参加と自立を目指し、生きる力を育む指導の探究」－個を見つめ、個の発達を促す援助のあり方に視点をあてて－
- 岩手大学教育学部附属養護学校（2000）：研究紀要第16集「個別の教育的ニーズにこたえ、主体的に生きる児童生徒を目指す授業の実践」－支援と評価のあり方－
- 鹿児島大学教育学部附属養護学校（1998）：研究紀要第11集「一人一人の子供の将来の生活につながるコミュニケーション指導の取り組み」
- 鹿児島大学教育学部附属養護学校（2001）：研究紀要第13集「一人一人の子供の将来の豊かな生活につながる教育課程の編成はどうあればよいか」－教育的ニーズの把握と指導内容・方法の整備－
- 森博俊編（2000）：「特殊教育」論の新転回と対抗的实践の課題－新学習指導要領は何をめざすのか 郡青社
- 太田俊己・名古屋恒彦（1996）：個別化と個別の指導計画 発達の違いと教育 No. 461 pp. 8-12
- 太田俊己（1997）：「個に応じた指導」の今日的動向と課題 発達障害研究 第19巻第2号 pp. 24-36
- 岡山大学教育学部附属養護学校（2000）：研究紀要第13号「個が生きる授業づくり」
- 清水貞夫（1997）：授業づくりと「個別指導計画」の作成 障害者問題研究 第25巻第3号 pp. 30-39
- 東京学芸大学教育学部附属養護学校（2000）：研究紀要No. 45「活動」と「参加」をめざす新しい教育支援のあり方（その2）－個別教育計画を重視した授業づくり－
- 筑波大学附属大塚養護学校（2000）：研究紀要第44集「一人一人を活かす授業」－個別教育計画を日常の教育実践に活用して－
- 湯浅恭正（1997）：障害児教育における集団作りと授業 障害者問題研究 第25巻第3号 pp. 21-29
- 全日本特殊教育連盟（1998）：個別の指導計画と授業 発達の違いと教育 No. 489
- 全日本特殊教育連盟（1999）：個別の指導計画を授業に生かす 発達の違いと教育 No. 502

<資料>

「豊かな生活につながる力」の領域と主な内容

つづめる力	領域	主 要 な 内 容
日常生活に必要な力	身近な生活処理	<p><食事></p> <ul style="list-style-type: none"> ○摂食の技能(箸, スプーンの使い方, 皿, お碗の持ち方等) ○食事マナー(姿勢, 好き嫌い, 食べこぼし) ○食事の準備, 摂食, 後片付け及び一連の流れの理解 <p><排せつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○排せつの意思表示(定時排せつ, 必要に応じて) ○排せつの技能(排尿の際お尻を出さない, ふき取り, 水洗, 手洗い等) ○排せつ行動の一連の流れの理解 <p><衣服の着脱></p> <ul style="list-style-type: none"> ○衣服の着脱技能(前後・表裏の判断, そで通し・すそ入れ, ボタン・ホックの掛け外し, ファスナーの開閉, 襟, 靴の着脱等) ○時間や場所に応じた衣服の選択や調節 ○着脱行動の一連の流れの理解(準備, 着脱行動, 畳む, 後始末) <p><清潔></p> <ul style="list-style-type: none"> ○手洗い, 洗面, 歯磨き, 鼻かみ, 爪切り等の清潔 ○身の回りの物の整理・整頓 ○生理の手当て(女子のみ) ○入浴(身体洗い, 洗髪, 身体ふき)
自 然 力	健康・安全・体力	<p><健康></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活リズム(規則正しい睡眠, 食事, 排せつ) ○健康の保持・増進(手洗いうがいによる病気の予防, 体を動かすことへの取組) ○体調や痛みの意思表示, 簡単な傷の手当 <p><安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ○危険回避行動(危ない場所や物を避ける) <p><体力></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩行・走行・階段昇降・片足立ち・ボール投げ等粗大運動の発達 ○指先の使い方・物や手の動きの注視力, 目と手の協応動作等微細運動の発達 ○調整力(平衡性・巧み性・敏しょう性), 筋力, 持久力, 柔軟性の発達
よ う と す る 生 活 の 力	コミュニケーション	<p><表出言語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションの文脈(どのような場面で, だれと行うのか) ○コミュニケーションの内容(どのような機能なのか: 要求, 承諾, 拒否, 確認, 情報提供, 応答, 情報請求, 感情表出, 慣用語など) <p>○コミュニケーション手段の種類や数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泣く, 叫ぶ等の身体動作 ・クレーン行動や指差し等の直接的行動 ・絵 ・文字 ・サイン ・話し言葉(一語文, 二語文, 多語文) <p>・実物提示</p> <p><理解言語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○簡単な会話(話題を提供する, 応答する, 話題を維持する等) ○話し言葉の理解 ・名詞, 動詞, 形容詞の理解 ・呼名, 禁止, 指示の理解 ○話し言葉以外の手段(実物, 動作, 写真・絵, サイン, 文字)による指示理解
幅を広げていく力	言語・数量	<p><言語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞く話す ・あいさつや返事ができる ・絵本や童話, テレビ, 物語などを見聞きして内容を理解する ・人の話を聞いて内容を理解する ・指示や説明を聞いて行動する ・自分の経験したことや見聞きしたことを話す ・自分の要求や意見を話す ・分からないことを尋ねる ○読む ・文字への興味・関心 ・自分の名前や友達の名前の弁別 ・平仮名の読み(文字の読み, 単語の読み, 特殊音節の読み, 文としての読み) ・片仮名の読み(文字の読み, 単語の読み, 特殊音節の読み, 文としての読み) ・漢字の読み(自分の名前, 生活の中で必要な身近な漢字, 漢字混じりの文章) ・簡単な物語文や説明文を読む ○書く ・書くことへの興味・関心, なぐり書き, 点と点を線で結ぶ ・平仮名の書き(なぞり書き, 視写, 自書, 名前, 単語, 特殊音節) ・片仮名の書き(なぞり書き, 視写, 自書, 名前, 単語, 特殊音節) ・漢字の書き(なぞり書き, 視写, 自書, 名前, 単語, 特殊音節) ・日常生活に必要な語や文を書く ・出来事や気持ちを日記や作文に書く <p><数量></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数の基礎概念 ・身近にある物のある特徴によって他の物とは異なる物として個別化する(弁別) ・身近にある物のある特徴によって分類したり, 集めたりする(類別) ・対応付けによって二つの集合の同等, 多少を判断する(同等性)

生活の幅を広げて 自らくしよ うとす る 共 に 生 活 す る 力	言語・数量	<ul style="list-style-type: none"> 一度把握された物は、その位置や形状が変わっても同数、同量である(保存) ○数と計算 <ul style="list-style-type: none"> 数字への興味・関心、読み、書き 数対象を正しく数える 簡単な加法、減法 乗法や除法、分数、小数、単位の理解 ○量と測定 <ul style="list-style-type: none"> 直接比較で大小、多少、軽重などを判断する 長さの単位を知っていて、定規等で測定する 重さ、量(かさ)の単位を知っていて、測定する 基本図形の理解(三角形、四角形、円) 定規やコンパスの使用 表やグラフの理解 ○実務 <ul style="list-style-type: none"> 日時に関する言葉の理解と使用(朝・昼・晩、昨日・今日・明日) 時計の見方と活用 カレンダーによる日にちや曜日の理解 貨幣の種類と等価関係の理解 お金の出し方を工夫した買物 電卓の使用
	余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> <余暇の過ごし方> ○自由時間の適切な過ごし方 <ul style="list-style-type: none"> 目的指向性のある遊びや活動の自己選択・自己決定 ○興味・関心のある活動(過ごし方のレパートリー) <ul style="list-style-type: none"> パズル、ブロック・数人で行うゲーム・パソコン、テレビゲーム・音楽鑑賞 テレビ、ビデオ、ラジオ・絵画、工作、模型・雑誌、漫画、絵本・カラオケ スポーツ・手芸・料理・園芸・旅行・散歩 ○一人で楽しめる遊びや活動、そのレパートリーと持続時間 ○室内で楽しむ活動や趣味、そのレパートリーと持続時間 ○室外で楽しむ活動や趣味、そのレパートリーと持続時間
	社会・団参加	<ul style="list-style-type: none"> <情緒> ○情緒の安定度、不安定になる場合の要因 ○自己統制(待つ、我慢する、行動の切り替えなどの行動のコントロール) <対人関係> ○他者からの働きかけへの反応 ○友達や異性とのかかわり方 ○状況に応じた言葉遣いや礼儀、マナーの理解 <集団行動> ○ルールの理解(順番、交替、簡単なゲームへの参加) ○学校行事や様々なイベント(地域行事、映画、コンサート等)への興味と参加 ○様々な活動における役割の理解(係活動、委員会活動、家庭での手伝い等)
	家庭生活	<ul style="list-style-type: none"> ○調理、配膳、片付け ○洗濯、洗濯物の干し方、取り入れ、整理収納 ○ほうきや掃除機での清掃、ゴミの捨て方 ○ボタン付け、ミシンの使い方、アイロン掛け等の裁縫 ○布団の上げ下ろし、シーツの敷き方 ○留守番
	地域生活	<ul style="list-style-type: none"> ○交通ルールを理解した行動(自動車や信号機の意識、安全な歩行) ○交通機関の利用 ○公共施設の利用(郵便局、銀行、公園、娯楽施設、病院、公衆トイレ、役所等) ○お金の使い方、自動販売機の利用、スーパーでの買物 ○ファーストフード店、レストランの利用 ○電話の利用(自宅の電話、公衆電話、携帯電話) ○時間(スケジュール)の管理
職業生活	<ul style="list-style-type: none"> <作業知識> ○自分の係や役割の活動(働く)内容の理解 ○作業工程の理解 ○自分が使う道具や工具の名称及びその使い方の理解 ○安全への気配り(道具や工具の安全な使用、危険な場所や事物についての認識) <作業技能> ○作業に必要な道具や工具の準備、簡単な点検、手入れ ○一定の作業速度、作業量を保持する技能 ○つまむ、ひねる等の手指作業(作業の巧み性) ○作業内容や行程に応じた機能的で安全な道具や工具の使用 ○道具や工具の後始末、仕事場の清掃 <作業態度> ○自分の仕事や作業に対する積極性 ○自分の仕事や作業に対して持続性、根気強さ ○製品の数量や良否を意識しながらの作業(作業の確実性) ○自分の仕事や作業に対する責任を持った取組 ○作業に対する計画性(生産量と時間の関係、効率性) ○作業における協調性(友達との協力、指示や注意の聞き入れ) 	